



国際ロータリー第2740地区 長崎北東ロータリークラブ

2021~2022年
週報第11号
(通算2199号)
例会:令和3年11月17日

四つのテスト 言行は、これに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか



会長エレクト
田中 徳之



会長挨拶 浜本 義文

これからの社会、産業で 実現する “Society5.0とDX”

新型コロナウイルスの感染拡大前から提唱されていた「次世代の」**Society5.0**とは、我が国が提唱する未来社会のコンセプトで、AIやロボットの力を借りて我々人間がより快適に活力に満ちた生活を送ることができる社会を目指すことです。例えば、①IoTですべての人とモノがインターネットでつながり、新たな価値が生まれる社会 ②AIにより必要な情報が必要な時に提供される社会 ③イノベーションにより様々なニーズに対応できる社会 ④ロボットや自動走行車等の技術で人の可能性が広がる社会が考えられます。**DX**(デジタルトランスフォーメーション)の目的は、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して顧客や社会のニーズを基に製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化、風土を変革し競争上の優位性を確立することにあります。**Society5.0**では、人間誰もがICT(情報通信)をうまく活用し、必要なモノやサービスを必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供できる社会になります。それを可能にすることができると考えられている一つに有人ドローンや空飛ぶクルマがあります。例えば、アメリカのGM、キャデラックといったような自動車メーカーが、電気自動車(EV)化への移行を前面に押し出し、将来的には空飛ぶ車に移行することを表明しています。さらに航空機メーカーのボーイングが2~4人乗りの機体を開発中で完全自動操縦の試験飛行に成功しています。国内においては、日本の有力な産業用ドローンメーカーのひとつであるPRODRONEにKDDI、三菱商事、キャノン等が出資して、有人ドローンの開発を行っています。空飛ぶクルマは、基本的には、電動、垂直離着陸型、無操縦士で、乗員は1~5人、航続距離は100~200km、速度は100~200kmで、陸のインフラに制約されずに点から点への移動が可能となります。これらが実現化すると、人の動きや物流に革命的な変化をもたらします。物流に関しては、全国400の有人島拠点間輸送に空飛ぶクルマやドローンが活用され、漁場で獲れたばかりの新鮮な魚や山間部での新鮮な野菜をダイレクトに消費者の元に送り届けることができます。また、ビッグデータの活用により各地の消費者の嗜好をデータ化し、どの商品がどの地域の消費者のニーズに合致するかが一目瞭然となるのでムダを省くこともできます。モビリティの分野に於いては、現在の都市部でのクルマの交通渋滞とは関係なく、呼べば、いつでも時間通りに空からタクシーがやってきます。空の移動の大衆化は、もはや夢物語ではなく、現実味をおびるようになりました。今後、これからは、ますます不透明、不確実性のある社会へシフトしていきませんが、**DX**、すなわち、デジタル活用、変化の受入れを前提に、今後を変える何かを見つけ、ビジネス、社会の変化を捉え、環境、地域などの社会課題解決に資するビジョンを持ち、新しい技術、サービスの展開はオープンイノベーションを活用して、産学連携していくことが大事だと思います。



【幹事報告】

- 11月のロータリーレート 1ドル=114円
- 例会休会 11/25(木) 長崎RC 11/29(月) 長崎中央RC 11/30(火) 長崎みなとRC
- 11月24日(水)は、忘年例会 アストピア 18時30分~
- 11月27日(土)は、地区大会です。出島メッセ長崎 11時30分~ 登録開始 13時~ 点鐘 名札は、当日会場でお渡しいたします。
- 例会後、定例理事会です。



幹事
西岡 克之

今後の予定

- 11月24日(水) 忘年例会 18時30分~ アストピア
- 12月1日(水) 地区大会報告
- 12月8日(水) 年次総会

ニコニコBOX



ニコニコ発表
伊藤 会友

浜本:長崎市役所 文化観光部 長崎学研究所 主事 入江清佳様、ようこそお越し下さいました。本日の卓話、宜しくお願ひ致します。先日の日曜、ポケと認知予防のため、難関国家試験にチャレンジしました。3時間の長丁場でしたが、最後までやり遂げることができました。結果は明らかにドボンです。多分~

西岡:入江清佳さん、本日は卓話よろしくお願ひします。本日お誕生日、結婚記念日をお迎えになられた方々、お目出度うございます。結婚祝ありがとうございます。

井口:結婚記念日・誕生日・入会5年目のお祝い、ありがとうございました。思いおせば5年間、4つのテストを唱えながら先輩達のパワハラに耐え、枕を濡らしながら耐え抜いた5年間でした。しかし、もう40才になります!40才からは皆様方からのイジメも減るとお聞きしております。これからも毎日4つのテストを唱えながら頑張ります!

伊藤:本日もよろしくお願ひします。

猪股:誕生日のプレゼントありがとうございます。お陰様で65歳になりました。65歳になったら、届く封書が年金の件・高齢者予防接種のハガキ・老後の生活設計のお知らせ等、年齢を感じさせるものばかりです。いつまでも、万年青年と思っていたのは、私の独りよがりであったと自覚している今日この頃です。

岩永(信):結婚記念日祝いありがとうございます。

大坪:久しぶりの例会、楽しみたいです。又、長崎市文化観光部 長崎学研究所 学芸員 入江清佳様、本日の卓話よろしくお願ひします。

田中(徳):お久しぶりです。本日、入江様の卓話 楽しみにしております。

辻村:本日の卓話、入江清佳様 宜しくお願ひ致します。

花田:本日、入江様のご来訪を心より歓迎いたします。本日の卓話 楽しみにしております。

馬場崎:久しぶりの例会、楽しみです。コロナが落ち着き、夜の出事も多くなってきました。体調管理をしっかり行い、年末を楽しみましょう。

東:11月お祝いをむかえられた皆様、おめでとうございます。

丸木:長崎市文化観光部 長崎学研究所 学芸員 入江清佳様のご来訪を歓迎致します。本日の卓話 よろしくお願ひ致します。

小計: 13名/¥34,000 累計: 140名/¥361,200

誕生日をお迎えになられた会友



11月11日 猪股会友



11月24日 井口会友



11月25日 辻村会友

結婚記念日をお迎えになられた会友



11月1日 高木会友



11月2日 岩永(信)会友



11月9日 馬場崎会友



11月13日 西岡会友



11月14日 石橋会友



11月22日 井口会友



11月22日 南里会友



11月23日 久保田会友



11月23日 田中(徳)会友

入会5年目



11月1日 井口会友

本日のご来訪者

洋画家 野口彌太郎の長崎での活動

長崎市役所 文化観光部
長崎学研究所 学芸員 入江清佳様



卓話

長崎学調査研究

1 長崎学とは

長崎学とは、長崎港を中心に発展してきた長崎市域を出発点とする、長崎の歴史や文化に関する学問・研究のことである。現在に至るまで、大学、博物館、郷土史研究団体を中心に、数多くの研究が発表・蓄積されてきた。

2 長崎学の課題と展望

近年、長崎を研究テーマとする研究者の減少や、長崎学の普及啓発を市民レベルで支えてきた郷土史研究団体の高齢化が進んでいる状況にあって、長崎学研究的担い手となる後継者の育成と長崎学の体系化が、取り組むべき喫緊の課題となっている。

長崎学研究所では、長崎学にかかる調査研究、普及啓発、後継者の育成に努め、その成果を市内外に発信することで、長崎学の特殊性・重要性を高め、研究の裾野を広げることを目的とする。

3 長崎学研究所の目的

長崎学の調査研究、普及啓発及び後継者の育成

4 長崎学研究所の主要事業

調査研究

- ・長崎学に関する資料調査、収集活動
- ・長崎学の研究と推進

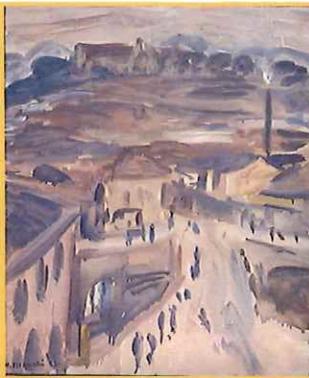
普及啓発

- ・長崎学ネットワーク会議、学習会
- ・長崎学研究所紀要『長崎学』の刊行
- ・長崎学研究発表会

後継者育成

- ・長崎学自動研究コンクール
- ・私人人材の発掘、養成

「たそがれ」野口彌太郎
昭和27年(1952)



野口が昭和50年頃撮影した写真



みづゑNo.643 昭和33年(1958)「長崎の画材をめぐって」



一陽会 鈴木信太郎



二紀会 鍋井克之

長崎の画材

鈴木 ほとんどのことでも、画材はありまじりげなく、入らなくて好まぬものも、(石川(鑑画)さんなど)古いものもいろいろと集めて描いている。

鍋井 画の道を描くのだと、横浜に行ってもあるわけですが、私がいいと思うのは、古い時代の洋画とか、それから長崎の画材がいいです。それから海を背景にした風景は、やはり長崎の特色となります。それがいくつかに集まると、山の手が描かれているので、想像されなくて。

鈴木 それから、外国の景色は、私は知らないけれども、日本の景色では、あれほど描くことがあつたところはない。つまり日本の景色は平らなところが多い。長崎に行くとも、うまい具合に高低の起伏が入りこんでいて、しかもあまりハイカラな風景にならないので、古い洋画が画壇の本拠から離れたら、うまい調子が保たれている。つまり絵の調子とすると、非常に面白い。これは

『造形』特集 長崎の今昔

ど賑わいがあつた。しかも、市全体が風景画で詩情に富んでいる。また、地形的にいっても、新しいものを移入するには優利な港湾をもち、一層波で上海へ飛んだので、上海は長崎人にとって、長崎の一部であるとき言われたらいい。

長崎は、一度は来てよいかと、ここに絵を描く人は必ず訪れる必要があつた。私の調べたところでは、野口彌太郎、故人の濱辺孝平(一へい)、末永康生、山中清一郎、漫画家水比呂若千の土地出身の作家は別として、長崎に来た画家は相当多数にのぼる。うで、ちよつと例を挙げただけでも(順不同)、中沢弘光、中野善策、東郷善男、中野和彦、鈴木久周、平塚運、鈴木信太郎、中野清、三原伸子、藤久夢二の諸氏がある。さらにこの「長崎の今昔」特集へ、文芸協を寄附する中野、少孔の諸氏並に長崎生れの彫刻家北村西望、北村治晴、富永山岡、井手川原の寄附を加えれば、大した賑わいである。

美術評論家 旅人の印象 荒城季夫

長崎出身の日本画家は、必ずしも多いとはいえない。近代では故荒木十成、現環境に活躍する小林豊樹氏くらいのものであろうか。大いたい。長崎の風土は活潑的であつて、これは音楽、油彩画

鈴木 戦前のことはあつたとして、野口さんがいっしょに描いた戦争前後を描いたのだから、野口さんは戦争前の出身のようだから、昔の長崎についてはよく知っておられると思いますが、画を描きに行かれたのは戦後ではないかと思ひます。ともかく戦争前後、野口さんが描いていた、戦争前は非常にいい景色だし、いろいろものがあつて、物質も豊かであつた。あれだけ愛したところだから、いろいろと画材があつただろうけれども、第一の画材は、戦後始末で軍事施設のため写真とか絵を描くことは絶対禁止されていた。だから描けるものがあつても描くことができない土地だったんです。戦後はじめてそれが一般に開放されたから、けっこう戦後を境として描くようになったらいいですね。

みづゑNo.643 昭和33年(1958)「長崎の画材をめぐって」



独立美術協会 野口彌太郎(二八九九〜一九七六)



辻家一族、祖母母の間に彌次郎、右前が彌太郎、教育界に長じた祖父は、第一等功立章の他にイタリアの王冠一等勲章や、フランスのコマンダン・ド・ロルドル・ナショナル・ド・ラ・レジオン・ドヌール勲章を受けた。



両親と共に写した最古の記念写真。センターに野口彌太郎、左は弟彌次郎。写真台紙に韓蘭金山博士肥田真造の印影があり、裏面に明治三十七年五月中旬撮影と書き添えがある。

幼少期の写真